

令和7年度 学校経営計画

大田区立おなづか小学校

校長 酒井 敬子

I 教育目標

○よく考える子

- ・主体的に取り組む姿勢、論理的に深く考える力を身に付け、豊かに表現できる児童を育てる。
- ・学力の基礎・基本を確実に身に付けるとともに、既習事項や経験を生かして物事を発展的に考える児童を育てる。

◎思いやりのある子

- ・自己肯定感をもつとともに、他者を尊重する豊かな心を持ち、人にやさしくできる児童を育てる。
- ・異年齢、異文化等、自分以外の価値観を認め合って仲良くできる児童を育てる。

○明るくじょうぶな子

- ・心身ともに健康であることを目指し、目標をもってすすんで運動に取り組む児童を育てる。

II 目指す学校像

「明日も行こう」と思える楽しい学校 「分かった！できた！一緒に頑張れた！」

◇授業が楽しい：分かる授業・学習意欲がわく工夫された授業

◇運動が楽しい：「できた！」の実感がもてる授業・遊びの要素から技能の習得

◇学校での生活が楽しい：良好な人間関係・やりがいのある活動・認められる自分

○児童

教育目標の通り

○教職員

児童・保護者・地域から信頼され、やる気とやりがいをもって児童の教育を行う教職員

○施設

安全で使いやすく、整然と整った環境・施設

○学校全体

児童も教職員も凡事徹底（当たり前のことを徹底的に行う）することで、大きな問題や服務事故の起きない落ち着いた学級・学校

【当たり前のこと】

児童：挨拶をする・勉強をする・掃除をする・感謝をする・悪いことをしたら素直に謝る

目標に向かって行動する 等

教職員：危機管理意識を高くもつ（児童トラブル、保護者対応、服務関係）・社会人としてのマナーを守る・報、連、相の徹底をする。（管理職へは特に）

Ⅲ 学校経営目標

1 【予測困難な未来社会を創造的に生きる力の育成】

- *課題を解決する力、新たな価値を創造する力の育成
- *主体的に考え、行動し、協働していく力の育成
- *情報活用能力の育成

① 令和6・7年度 大田区教育研究推進校の取組（不登校対策・不登校未然防止）

校内研究を授業力向上のための自己研鑽の場と捉える。常に授業改善を図ることにより、児童の基礎学力を定着させ、人間関係形成力や自己肯定感、自己有用感を育む。

- ・授業改善：スモールステップ・自力解決時間の設定・最後までやり遂げる経験がある授業作り
⇒教師主導ではない授業
- ・基礎学力の定着：ドリル学習や小テストを確実に行ったり、家庭学習を定着させたりすることで、基礎的・基本的な学力を身に付けさせる。（「知識・技能」児童の8割が80点以上）
- ・人間関係形成力の育成：友達と関わり合いながら学習に取り組む。友達と力を合わせて、自治的活動を行う。（話し合い活動・係活動・集会活動・委員会活動・クラブ活動・縦割り活動等）

② 区独自教科「おおたの未来づくり」の実施による STEAM 教育の推進

- ・変化の激しい社会の中で、こどもたちが、未来を拓き地域を支える人となるために必要な「創造的な資質・能力」の育成を目指す。

【知識及び技能】

- *探究と創造を行き来する学習の課程において必要な、知識及び技能
- *ものづくりや地域の創生に関わる概念形成

【思考力・判断力・表現力など】

- *情報を集め整理・分析してまとめたことを基に、試行錯誤してコンセプト設定、デザイン、創造・発信する力

【学びに向かう力・人間性など】

- *自分と他者のよさを生かして、主体的に取り組もうとする態度
- *よりよい未来社会を創造しようとする態度
- ・5，6学年を対象とし、児童が実社会で活躍する方々と共に、地域の特色を生かして、創造し探究しながら「ものづくり」や「地域の創生」にチャレンジする。
- ・1～4年の間に、「おおたの未来づくり」の学習に取り組む基礎を育てる。

③ タブレット端末等の活用

- ・授業に積極的に ICT を活用し、児童の情報活用能力の育成を図るとともに、児童が分かりやすい授業を展開し、学力の向上を目指す。
- ・週に3日、月に10日以上タブレット端末を活用する。

④ キャリアパスポート等の効果的な活用

- ・キャリア教育を推進する。自らの学習状況やキャリア形成を見直すために、「目標設定・実践・振り返り」のプロセスを記録したキャリアパスポートを作成し、新たな目標に向かってチャレンジする力を育てる。

2 【世界とつながる国際都市おおたを担う人材の育成】

＊SDGs 未来都市大田区の実践

＊郷土の伝統・文化の尊重と、異なる文化・価値を理解しともに生きる態度の育成

＊英語力の向上とコミュニケーション能力の育成

① 環境教育の推進

- ・環境問題を考える「きっかけ」として、全校でエコキャップ回収活動を行う。環境問題を自
分事として考える意識を醸成し、区独自教科「おおたの未来づくり」とも連携していく。

② 道徳教育・人権教育の推進

- ・特別の教科 道徳を、年間35時間（1年生は34時間）確実にを行い、物事を多角的・多面
的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実
践意欲と態度を育てる。
- ・他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施す
る。（人権啓発作品展の活用）

③ 英語授業の充実

- ・ALT を活用した授業や英語カフェの実践を通して、児童が英語を用いてコミュニケーション
を図る場面を増やす。
- ・タブレット端末を活用し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の英語4技能に関する個別最適な
学びを充実させる。

3 【一人ひとりが個性と能力を発揮するための基礎となる力の育成】

【自分らしくいきいきと生きるための学びの支援】

＊健やかな体の育成

＊特別支援教育の充実

① 「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発と実践

- ・充実した学校生活を送り、登校しぶりや不登校を防ぐためにも、生活リズムを安定させるこ
との重要性を児童や保護者に啓発する。実践のために、重点月間のアンケートや、長期休業
日の「生活カード」を活用する。

② 体育学習の充実

- ・目標設定や振り返るための時間を設定したり、めあてカード等を用いて進捗状況を確認したり
することで、目標に向かって取り組み、人と関わり合いながら主体的に学ぶ態度を育てる。また、
「体育嫌い」を作らないために指導方法を工夫する。

③ 体力の向上

- ・短縄跳びや持久走、朝の「フリー・ジョイ・ランニング」等、一人ひとりが目標を立てて粘り強
く取り組める活動内容を考え実践させる。

④ サポートルームの充実

- ・啓発集会の取組を通して、学校全体でSRについての理解を深める。また、少人数での指導が在
籍級でも生かされるように、SR教員と学級担任の連携を密にする。

4 【学校・家庭・地域の連携・協働による、地域コミュニティの核としての学校づくり】

＊家庭教育の支援

＊地域と連携した安全・安心な環境づくり

① 学校ホームページの充実

- ・本校での教育活動を広く知っていただくために、週に3回のホームページ更新を目指す。

② 家庭・地域との連携

- ・コミュニケーションの第一歩である挨拶を大切にし、年間を通して児童・保護者・地域に働きかける。
- ・年間3回の「家庭学習定着週間」を確実に実施し、学校だよりやホームページ、保護者会等多様な方法を用いながら、週間後の定着を図る。
- ・地域の行事参加について、児童に呼びかけるとともに教員も可能な限り参加する。
- ・令和7年度より、学校運営協議会をもつコミュニティ・スクールを導入する。